



建築家の安藤忠雄氏が手掛けた式典会場

第59回 全国植樹祭

地球環境問題に世界的な関心が集まる中、
秋田県北秋田市にある県立北欧の杜公園にて
「手をつなごう 森と水とわたしたち」をテーマに
第59回全国植樹祭が開催されました。

今回のシンボルマーク



【森っち】

子ども（妖精）が「水と緑（若木）」を大切に育てるとともに、その恵みを受けている様子が表現されています。大会テーマ「手をつなごう 森と水とわたしたち」の表現にもなっています。「森」と「友だち」の「ち」を組み合わせて名前をつけました。



右上：水の精（バレエダンサー）のパフォーマンスに来場者は魅了されていました。

右下：作家の西木正明氏、脚本家・作家の内館牧子氏、元国連事務次長の明石康氏がトークを繰り広げました。

左下：建築家の安藤忠雄氏と作家の石川好氏による環境デザイントークも行われました。

四十年ぶりの開催となった 秋田県での全国植樹祭

今年で第五九回目となる「全国植樹祭」が秋田県北秋田市の県立北欧の杜公園で開催されました。同県での全国植樹祭は一九六八年に田沢湖畔で開かれて以来、四十年ぶり。前日には「岩手・宮城内陸地震」が発生。同市でも震度4を観測しましたが、会場には約一万一千人を超す参加者が集まりました。

式典前のプロローグでは、西木正明氏（作家）、内館牧子氏（脚本家・作家）、明石康氏（元国連事務次長）といった秋田県出身の著名人が登場。白神のブナと天然秋田スギなど秋田県の恵まれた自然に感謝すると同時に、北海道洞爺湖サミットを機に世界的に関心が高まりつつある環境問題へのメッセージが述べられました。続いて「水の精」に扮したバレエダンサーたちが、ウォータードラムや琴、尺八の音色に合わせて踊る「秋田の森と水との出会い」を上演し、その後、寺田典城秋田県知事から大会テーマやシンボルマークなどの考案者に対する感謝状の贈呈が行われました。



左上：緑の少年団から農林水産大臣、環境副大臣に苗木を贈呈。右上：天皇陛下はおことばを述べられました。
 左下：皇后陛下はカツラなどをお手播きされました。右下：天皇陛下はブナなどをお手植えされました。

秋田県ならではの樹種を 天皇皇后両陛下が お手植え・お手播き

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、午前十一時に式典は幕を閉けました。谷福丸国土緑化推進機構副理事長による開会のことばなどに続き、天皇陛下におことばを賜りました。陛下はまず、岩手・宮城内陸地震の被災者へお見舞いのおことばを述べられたのち、全国植樹祭を契機として、更に多くの人々の間に森づくりに参加していく気運が高まることを願われました。その後、緑化功労者への表彰などが行われ、続いて緑の少年団の子供たちから若林正俊農林水産大臣と桜井郁三環境副大臣へ、苗木が贈呈されました。

続いては天皇皇后両陛下によるお手植えとお手播きです。天皇陛下はブナ、トチノキ、秋田スギを、そして、皇后陛下はカツラ、ミズキ、ヤマモミジを、それぞれお手植え・お手播きになりました。どの樹種も秋田県を代表するもので、両陛下が心を込めてお手植え・お手播きになられているお姿が印象的でした。

式典を締めくくったのは、来年の開催地へのリレーセレモニー。今回の全国植樹祭は福井県で行われます。

伝統芸能から名物料理まで 秋田のシンボルが一堂に集結

今年の全国植樹祭の会場となった
県立北欧の杜公園は、二〇〇ヘクタールという広大な総面積を持つ公園です。豊かな自然が残る環境は、森林の役割や大切さを伝える「全国植樹祭」開催地として、まさに理想のロケーションと言えます。当日は式典会場のほか、「環境テーマゾーン」「イベント広場」「イベントステージ」「祭り体験ゾーン」が設けられました。それらのエリアを取り囲む

ように出店された店舗は、大館曲げわっぱをはじめとする工芸品を扱うブースから、稲庭うどんやきりたんぽといった名物料理を提供する飲食ブースまで、バラエティ豊かな計四〇店。店舗から店舗へと、移動しながら楽しむ姿が多く見られました。また、「イベントステージ」「イベント広場」での催しも充実。北秋田市の各地区で継承されている「北秋田駒踊り」、湯沢市に古くから伝わる「小町娘」のほか、秋田市の「竿燈」、男鹿市の「なまはげ郷神楽」など秋田県の伝統芸能・文化が次々に披露

され、会場を盛り上げました。これは全国植樹祭に合わせ、特別に実施されたものなので、訪れた観客にとっても貴重な見学機会となったことでしょう。
今年には北海道洞爺湖サミット開催年でもあり、そのテーマは地球環境問題に重きを置いたものとなっています。今回の全国植樹祭を通じ、森林が有する多面的機能や自然との共生の意義についての理解を深め、緑化運動がさらに発展していくことを願ってやみません。



1



2



3



4

- 1：迫力ある「北秋田駒踊り」が堪能できました
- 2：湯沢市で行われている小松まつりでの「小町娘」も登場
- 3：会場でパンフレットを配布していたボランティアスタッフの相馬郁さんと太田寛弥さん
- 4：クラフトコーナーは子どもたちに大人気でした